

【令和3年3月現在】

大分県における農業用ハウス強靱化緊急対策事業取組内容

【経緯】

平成29年に発生した九州北部豪雨及び台風18号、平成30年の台風7号、西日本豪雨及び台風24号、令和元年の台風8号及び17号等、近年多発する暴風雨により農業用ハウスが被災したことから、保守管理が必要なハウス(パイプハウス)について補強の必要性を感じた。

【大分県における農業用ハウスの状況】(H28年)

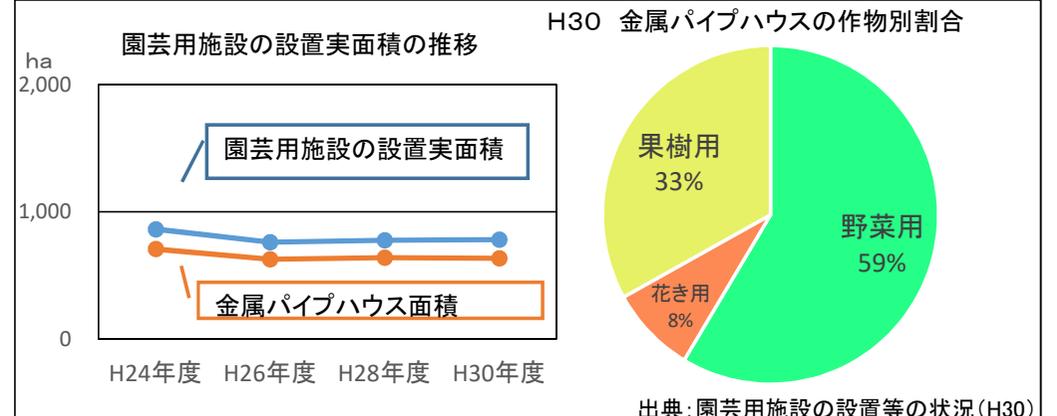
- ・農業用ハウス 776ha
- ・うちパイプハウス 406ha
- ・うち雨よけハウスを除いた面積 235ha

【対策の内容】

- ・ハウス補強保守管理研修の開催、広報誌による周知
- ・施設園芸機器資材展の開催
- ・ハウス補強の実施、防風ネットの設置

○具体的な取組内容(台風対策)

- ・筋交いやタイバー、中柱等による補強
- ・アンカー杭による補強
- ・防風ネットの設置



※金属パイプハウスは、一般的な農業用パイプハウスを指す。

【令和3年3月現在】

農業用ハウス強靱化緊急対策事業の取組概要

【大分県臼杵市】

1.地区の概要

- ・臼杵市は、いちごの産地であり、農業用ハウスのうち保守管理の対象となるパイプハウスは1割を占める。
- ・課題は、台風の上陸・接近のたびに、倒壊など台風関連被害が発生しやすいこと。

2.取組内容、効果

【地区の概要】

- ・農業用ハウス 291ha うちパイプハウス 123ha(H28年)
(雨よけハウスを除くパイプハウス29ha)
- ・補強が必要なハウス面積 1ha

【取組内容】

- ・主な補強の方法:筋交い・梁による補強、防風ネットの設置

【補強方法を選んだ理由】

- ・台風被害防止を目的に筋交い・梁による補強や防風ネットの設置を選択。

【効果】

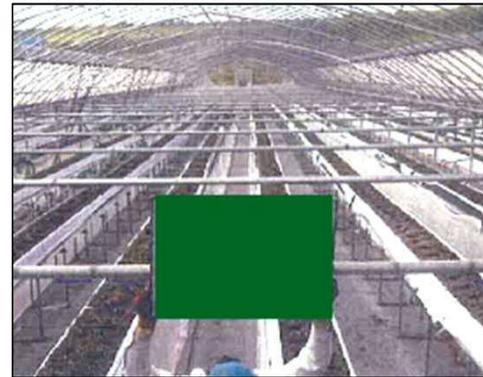
- ・台風による被害を防止することができた。
- ・気象条件による影響を軽減し安定した栽培が実現できた。

3.今後の取組

- ・保守管理・災害対策の指導者の育成
- ・保守管理の周知
- ・取組効果の普及

4.補強の概要

補強名:補強梁取付



補強名:防風ネット



【令和3年3月現在】

農業用ハウス強靱化緊急対策事業の取組概要

【大分県豊後大野市】

1.地区の概要

- ・豊後大野市は、ピーマンやいちごの産地であり、農業用ハウスのうち保守管理の対象となるパイプハウスは3%を占める。
- ・課題は、台風の上陸・接近のたびに、倒壊など台風関連被害が発生しやすいこと。

2.取組内容、効果

【地区の概要】

- ・農業用ハウス 1,961ha うちパイプハウス 787ha(H28年)
(雨よけハウスを除くパイプハウス59ha)
- ・補強が必要なハウス面積 2ha

【取組内容】

- ・主な補強の方法:筋交い・タイバー等による補強、防風ネットの設置

【補強方法を選んだ理由】

- ・台風被害防止を目的に筋交い等による補強や防風ネットの設置を選択。

【効果】

- ・台風による被害を防止することができた。

3.今後の取組

- ・保守管理技術・災害被害防止対策の指導者の育成
- ・講習会等での保守管理技術・台風等の被災防止対策の周知

4.補強の概要

補強名:筋交い補強



補強名:防風ネット

